

山から遭難事故を減らそう！！

「ストップ・ザ・1000」

キャンペーン

警察庁発表の山岳遭難事故データによると、2018（平成 30）年の山岳遭難の発生件数は 2,661 件、遭難者総数 3,129 人、死者・行方不明者 342 人、負傷者 1,201 人、無事救出 1,586 人で、統計に残る 1961（昭和 36）年以降で最も高い数値となりました。態様別では道迷いが 1,187 人（37.9%）と突出しています。

遭難者総数は、約 20 年間、右肩上がり傾向が続いています。これでは登山行為が、社会悪とみなされかねません。

そこで、私たち登山者が団結して、1996（平成 8）年代の遭難者総数 1,000 人台に戻す“減遭難”に取り組みませんか。遭難とは言い難い道迷いが 1,187 人もいるのです。これを無くすだけでも 3,129 人から 2,000 人以下にまで減少させることができます。

日本では、かつて年間の交通事故死者が 1 万人を超えていました。最高は 1970 年の 16,765 人です。それが昨年（2018 年）は 3,532 人にまで減少しています。1970 年の数値のわずか 21%です。確かに交通事故死者の減少は、法規制、車両改良などの要因が大きいと思いますが、「交通事故死者 1 万人キャンペーン」が奏功したのも事実です。やればできるのです。一緒に“減遭難”に取り組みましょう。

どんな荒海でも優秀な船長の下では難破しない、と言われます。同様に、登山でも優れたリーダーの下では遭難を回避できます。（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）では、本年度より身近なリーダーを養成する「夏山リーダー養成講習会」を全国で展開し、“減遭難”に積極的に取り組んで参ります。

The logo for JMSCA (Japan Mountain Sports Climbing Association) features the letters 'JMSCA' in a bold, black, sans-serif font. A small red dot is positioned to the right of the letter 'A'.